

CAMPUS 八戸学院

vol.67

八戸学院夏物語

八戸学院光星高等学校 硬式野球部

2年連続12度目の夏の甲子園出場

八戸学院チャリティーゴルフコンペ開催 [8/4]



お礼の言葉を述べる松倉典子代表理事



多くの参加者で賑わいました

令和5年8月4日（金）「第30回八戸学院親睦チャリティーゴルフコンペ」が八戸カントリークラブで4年ぶりに開催され、182名が参加しました。

コンペ終了後には八戸プラザホテルアーバンホールで表彰式・懇親会が行われ、大会長である法官新一理事長は「猛暑の中、全員がホールアウトできた。たくさんの方が参加できたことに感謝します。」と挨拶しました。

参加費を含めた収益金は公益財団法人こころすこやか財団に寄付。法官大会長から目録を受け取った松倉典子代表理事は、「地域の皆さんと交流を深める際のレク用品に活用できればと思います。」と述べられました。

CONTENTS

- 3 八戸学院チャリティーゴルフコンペ開催
- 4 八戸学院夏物語
- 6 研究室訪問
専門職業人同士の協働による、
子どもに届ける育ち学びの支援
～ 相談室を飛び出すアウトリーチ型の心理臨床活動 ～
- 8 八戸学院光星高等学校 硬式野球部
2年連続12度目の夏の甲子園出場
- 10 オープンキャンパス2023
- 12 八戸学院 TOPICS
- 14 ステラが行く
- 15 ステラ・フォーカス
- 16 同窓生の広場
- 17 職員ファイル
- 18 理事長散策

光星高

僕たちはどう生きるか
～高校生のための文化講演会～[9/12]



森田真生 氏

数学をテーマとした著作・講演活動などを行う「独立研究者」森田真生氏を講師に「高校生のための文化講演会」（主催：一ツ橋文芸教育振興会）が開催されました。

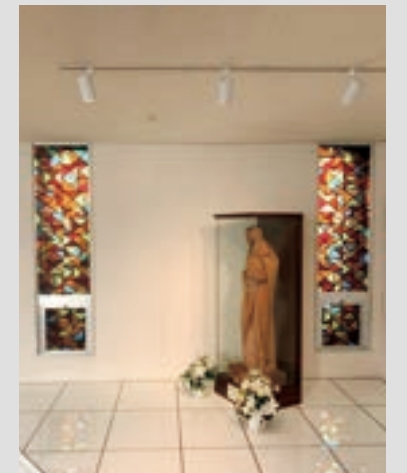
森田氏は著書の『僕たちはどう生きるか』を題材として、これからの生き方について、生徒に熱く語りかけていました。



講演終了後、集英社様より本を100冊寄贈いただきました。

CAMPUS 八戸学院

vol.67



表紙

「聖母子像」は、元八戸短期大学（現八戸学院大学短期大学部）教授の欠畑みな子氏の作品です。1987年4月に寄贈され、現在、短期大学部幼児学科棟の学生ホールに飾られています。寄贈されてから36年、夢に向かって頑張る学生たちの成長を見守っています。

建学の精神

「神を敬し、人を愛する」

カトリックの精神に則る道德教育を施し、高尚なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することをもって目的とする。（寄附行為 第3条）

- 八戸学院大学
TEL 0178-25-2711
- 八戸学院大学短期大学部
TEL 0178-25-4411
- 八戸学院地域連携研究センター
TEL 0178-25-2789
- 八戸学院図書館
TEL 0178-30-1695
- 八戸学院光星高等学校
TEL 0178-33-4151
- 八戸学院野辺地西高等学校
TEL 0175-64-4166
- 八戸学院幼稚園
TEL 0178-34-5765
- 八戸学院聖アンナ幼稚園
TEL 0178-45-3670
- 八戸学院第二しのめ幼稚園
TEL 0178-25-2488

<https://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>

八戸学院第二しののめ幼稚園 浅虫水族館へ



年中・年長組の園児が
浅虫水族館に出かけました。
初めての青い森鉄道にドキドキの子どもたち。
水族館に到着すると海の生き物に興味津々。
そして楽しみにしていたイルカショーに大興奮。
夏休みの素敵な思い出ができました。



八戸学院野辺地西高等学校 のへじ祇園まつり



産業技術系列の
生徒・教員が山車を製作。
公欠を除く生徒約150人が
お揃いのはんてんをまとい
町内を元気よく練り歩きました。
また、祭りの終盤には
沿道の清掃活動も行いました。



「八戸学院夏物語」

八戸学院大学短期大学部 八戸小唄流し踊り



4年ぶりに開催された八戸小唄流し踊りに
幼児保育学科、介護福祉学科の学生170名が参加しました。
当日はあいにくの雨模様となりましたが、
色とりどりの浴衣に身を包んだ学生たちが
練習の成果を披露しました。

八戸学院幼稚園 星の子祭



夏休み中に開催された「星の子祭」。
当日は、PTAのお母さんやパパ親クラブが企画した
大人気のゲームのお店をはじめ、「遊び空間ワンパーク」や
箱庭あそびなど楽しいことがいっぱい。
みんなニコニコ笑顔で楽しい1日となりました。



専門職業人同士の協働による、 子どもに届ける育ち学びの支援 ～ 相談室を飛び出すアウトリーチ型の心理臨床活動 ～



八戸学院大学短期大学部
教授 野口 和也

明星大学 人文学研究科博士後期課程
心理学専攻/教育学修士

2020年 八戸学院大学短期大学部
幼児保育学科に勤務

専門分野 臨床発達心理学、特別支援教育
行動コンサルテーション、
応用行動分析
担当科目 人間関係、保育内容総論、
教育課程論、教育相談、
子どもの家庭支援の心理学
ゼミナールⅠ～Ⅳ

1. 子どもの未来づくりに携わる私たち
2020年4月に私は、八戸学院大学短期大学部幼児保育学科に着任しました。これまで、関東・関西圏で、臨床心理士、公認心理師として、長らく乳幼児健康診査や子育て相談、心理・発達相談、療育に従事してきました。そして、2003年からは保育所・幼稚園、小・中・高等学校で自治体を取り組む特別支援教育の巡回相談に携わってきました。

巡回相談で保育・教育現場を訪れた際、先生方から「なぜ？こんな行動をするのだろうか？」「どうして、これまで培ってきたかわり方が実らないのだろうか？」という声をよく耳にします。この先生方の言葉は「子ども一人ひとりをより深く理解したい」、そして、「一人ひとりに合った、かわりを行いたい」という、あたたかな想いからくるものだ、私は感じています。

ところで、現代の社会の展開は目まぐるしく、その進化は加速度を増し続けています。

当然の如く、私たち大人自身も、そして営む生活も、作り出す家庭（子育て）環境までも、大きく様変わりしているわけです。この良否が多分に含まれるであろう転変した社会環境は、そこに身を置く子どもたちの成育にまでも、その影響が大きく波及していても、何ら不思議ではないでしょう。

そして、先の巡回相談で出会う先生方の想いに溢れた言葉に立ち返れば、「すべての子どもたちが、健やかに育ち確かに学び成長できる最適な生育環境（教育を含めた）を創造したい」という専門職業人としての尊い意志と強い使命感の表れだと思っています。

今まさに求められる、その環境の実現に向けて、保育者や教師は、日々その専門性を磨き上げるために、意識改革とただならぬ努力を重ね続けてくれています。やはり、「今も昔も」子どもの未来づくりに携わる私たちは、学び続け、変わり続けることが欠かせないように思います。

2. 子どもたちへのニーズという
理解のまなざし
保育・教育現場に寄せられる社会的な期待・要求はますます高まる中、時代の趨勢の中で保育・教育施策や事業の「目玉」も変わります。では、ただけの子どもたちが支援を必要としているのでしょうか。図1は、教育実践上の課題と関連させながら、全幼児・児童生徒の実態把握の概要を示したものです。たとえば、3段目に特にかかわる点については、2022（令和4）年に文部科学省が行った「通常学級に在籍する特別な教育

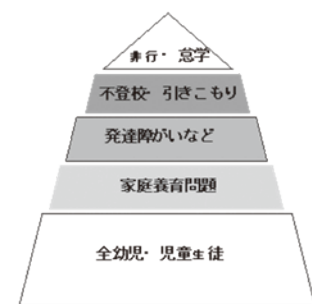


図1 全幼児・児童生徒の実態

的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」があります。その中では、知的な遅れがないものの学習面又は行動面で著しい困難を示す通常学級に在籍する児童生徒が8.8%存在し、小学校の第1、第2学年では12%超にのぼるという報告もあります。ここからも、現在の教育課題は重層的で多岐に渡り、特定個人の一面的あるいは限局的な取り組みだけでは解消されないことが感じ取れるのではないのでしょうか。そして、このことは、多くの子どもたちが、今まさに「困っている子（※苦しんでいる子）」ということを意味しているのです。決して、保育者や教師、大人を「困らせている子（※苦しめる子）」ではないのです。

さて、子どもの特別な発達ニーズや教育ニーズは、いくつかの要因（表1）にもとづいて、顕在化してきます。これらの要因は幅轉して作用するので、各々を峻別することは難しいですが、このニーズという視点は、幼児、児童生徒を理解することに寄与します。この深い理解が礎石となり、一人ひとりのニーズに応じた支援、援けが導出できるのです。

このようなニーズという考え方は、2007年4月学校教育法に位置付けられた、わが国の大きな教育転換、即ち「特別支援教育」の歩みによりもたらされたものです。今日に至るまでの15年以上の歳月の中で、保育・教育現場では、子どもたちの育ちと学びを最前線では、支援の輪を作り上げようと努めてきました。このような教育現場での取り組みをバック

アップする仕組みのひとつが外部の専門家による巡回相談です。

表1 発達上の課題が生じる要因

○発達の要因	場合によると、なにか <u>発達のつまずき</u> を有しているかも知れないということ
○心理的要因	場合によると、 <u>不安や恐れ</u> 、あるいは <u>心の成長に関する未熟さ</u> を有しているかも知れないということ
○社会的要因	場合によると、 <u>生育経過に大きなトラブルや必要なケアの不足</u> を有しているかも知れないということ

3. 私の発達支援に寄与する
コンサルテーション研究について
私の研究領域は、巡回相談の理論的な背景であるコンサルテーション（図2）です。巡回相談員は、ニーズを有する子どもへの間接支援を提供することになります。このようなコンサルタントとコンサルティの協働的な問題解決の方法を、コンサルテーションと言います。外部専

門家（コンサルタント）と主に保育者・教師（コンサルティ）が互いの異なる専門性を発揮した相互作用を通じて、見立ての生成と支援を創出するのです。そして、子ども（クライエント）のより良い育ちや学びという目的に共に向かうわけです。コンサルテーションが成功裡に進むかどうかは、巡回相談後の保育者、教師の子どもへの支援実践の質に大きく左右されます。つまり、保育者・教師が、子どものために、変わる（新たに挑戦する）ことができるのか、ということの意味します。

では、保育者・教師を支える外部専門家（コンサルタント）にはどのような知識・技術（専門性）が必要なのでしょう。瞬く間に、子ども（クライエント）のニーズや支援環境について客観的な分析を行える専門性だけでは十分でないのです。保育者、教師の子ども観（保育・教育観）や支援に関する信念や態度など細やかに感じ取る共感性、問題解決への道のりに寄り添い共に歩み続ける対人（援助）関係力が絶対的に求められます。それは、どれほどの高尚な専門性を有する外部専門家であったとしても、今日の前にある子どもの「困り」を「一瞬で解決できる」魔法の杖」を提供することはできないのです。だからこそ、私自身は、外部専門家として、先生たちと、子どもの存在を真ん中」に、語り合い、共に考え、互いに影響し合いながら、そして変わり続ける過程を通して支援を創り出すことが、コンサルテーションという形式では何より大切なのだと思います。今後も、私は、先生一人ひとりの想いや強み、持ち

味の開花を助け、その先生だからこそできる、主体的かつ創造的な教育実践を支えることができる、コンサルテーションのあり方に関する研究を重ねたいと考えています。

4. 地域貢献について

私自身の心理臨床家としての経験や専門性、研究の成果が、地域の皆様のお役に立てることは、何より嬉しいことです。着任後、ありがたいことに、さまざまな研修会講師や巡回相談のご依頼をいただき、多くの方々との出会いに恵まれました。この一つひとつの時間は、心理臨床活動を行う自分自身も変わり得る存在として、その専門性を高め続けなければならぬという思いを強くしてくれました。今後、より地域に貢献できる人材となるべく、努力していきたいと思っています。

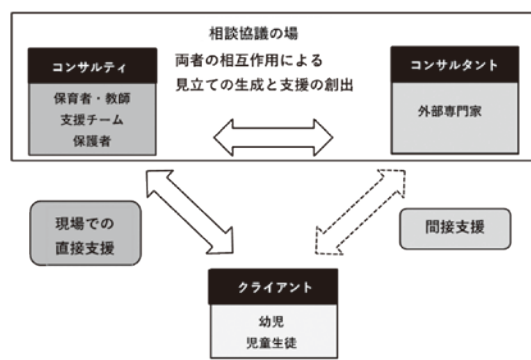


図2 コンサルテーションの図式

3回戦 応援隊 日程表 [8/15~17]

1 光星高校集合・出発式 8/15 15:30



観光バス7台で出発



行くぞ光星! のかけ声で気合十分

2 光星高校出発 8/15 16:00



4年ぶりのベスト8進出に大盛り上がり

15 光星高校到着・解散式 8/17 12:30

3 滝沢PA 8/15 17:30 夕食積込

4 安達太良SA 8/15 21:50 洗面休憩

5 草津PA 8/16 7:40 朝食積込

6 琵琶湖グランドホテル 8/16 8:50 バス乗換

7 西宮SA 8/16 10:30 昼食積込

8 浜甲子園駐車場到着 8/16 11:10 甲子園球場まで徒歩 20分

9 試合開始 8/16 13:10



188名応援隊が一丸となり熱い声援を送ります

10 浜甲子園駐車場出発 8/16 16:30



暑さに負けず力いっぱい応援を

八戸学院光星高等学校 硬式野球部

2年連続12度目の夏の甲子園出場

準々決勝

土浦日大	0	0	3	0	0	5	0	0	1	9
八学光星	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2

8安打もつながら欠く

2回にチャンスを逃さなかった土浦日大に先制点を許してしまいました。その後も洗平・岡本が粘りのピッチングをしましたが、決定的な1本が出ないまま、6回に追加点を許してしまいました。その後も相手エースから点を取ることができず、終わってみれば9対2と惨敗でした。ベスト4をかけた試合で、自分たちの力を発揮した土浦日大は強かったです。

中澤恒貴(遊撃手)

3回戦

文芸大付	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3
八学光星	4	0	0	1	1	0	0	0	0	6

好機逃さず 4年ぶり8強へ

立ち上がりで先制点を取られましたが、その裏の攻撃で藤原選手、青木選手のタイムリーで逆転に成功。2回以降は本来のピッチングができました。8回にランナーを溜め2失点したところで、比呂(洗平投手)に代わりました。試合終了後に比呂に「ごめん」と一言かけると、「ナイスピッチング」という言葉が返ってきて、同級生に比呂がいて良かったと思いました。

岡本琉奨(投手)

2回戦

明 八学光星	0	0	0	0	3	0	3	1	0	7
桜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

熱闘135球 完封で初戦突破

約1ヶ月間、実践から遠ざかっていて焦りがありました。序盤は制球が定まらず、5回まで苦しい展開が続きましたが、野手の守りもあり抑えることができました。試合全体を通して、四死球が多く本調子ではありませんでしたが、粘りのピッチングで完封という結果に繋がりました。

洗平比呂(投手)



写真提供:デリー東北新聞社(左・中 8/17、右 8/13)



「第105回全国高等学校野球選手権大会ベスト8進出」

硬式野球部 仲井宗基

2年連続12回目の出場となった夏の甲子園大会は、昨年の経験を生かして、4年ぶりベスト8に進出することができました。初めて夏の甲子園に出場した時は、佐賀商業高校に初戦で敗れましたが、2000年の第82回全国高等学校野球選手権大会以降、11大会連続で初戦を突破することができました。甲子園で勝つことは、とても大変で簡単なことではありませんが、このような記録を作れたことは、大変名誉なことであり、本校が一流の学校になった証であります。

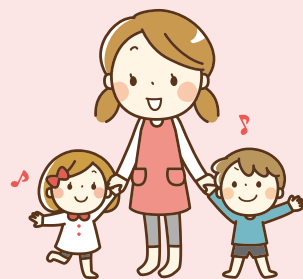
大会を振り返ると決して順調な戦いではありませんでした。青森大会から苦しい試合の連続で、決勝戦も史上初のタイブレークで、何とか八工大一高を振り切る試合でしたが、過去に築いた伝統の力と選手達の意地で勝ち上がることができました。昨年の仙台育英高校に続き深紅の大優勝旗を持ち帰ろうと挑んだ甲子園大会はベスト8の結果でしたが、再びチャレンジしていきたいと思えます。日頃よりご支援ご協力をいただいている方々が喜んでいただけるように、更に甲子園で躍動すべく日々精進して参ります。これからもご声援宜しくお願い致します。





体験授業 >>>

体験授業では、各学科で趣向を凝らした講義が行われます。学生は、主に講義の補助ですが、幼児保育学科では、学生自らが授業を担当しました。



学食体験・キャンパスツアー 在学生フリートーク >>>

この頃になると高校生も打ち解けて、学生スタッフがちょっと年上のお兄さん・お姉さんの存在に。講義や学生生活など様々な質問に答えます。

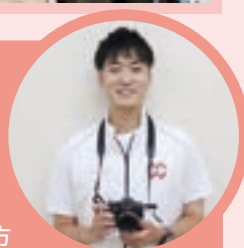


私は、学生スタッフとしてオープンキャンパスの写真や動画の撮影を行っています。撮影後は、SNSや大学・短大パンフレットなどの広報活動に活用できるように編集・加工も行っています。

オープンキャンパスの撮影では、限られたタイムスケジュールのなかで、全会場を撮影できるよう、事前に行動内容を自分自身で確認しています。また、撮影の際に困っている高校生や学生スタッフがいた場合、積極的に声掛けをするようにしています。緊急事態の際は、その場の状況把握や対応方法について職員の方に連絡し、スムーズな対応を心がけています。

学生スタッフの活動を通して、様々な知識やスキルを身に付けることができました。卒業後はデザイナーとしてこれまでの経験を活かしながら、写真や動画の撮影、ポスター作成などを精一杯頑張りたいと考えています。

地域経営学部地域経営学科4年 堀合 遥希



オープンキャンパス2023

オープンキャンパス実施には、「学生スタッフ」の力が不可欠です。
仕事の内容も、受付や司会進行、体験授業の補助など
学生にとって貴重な体験の場となります。
今回は、学生スタッフの様子を紹介します。



受付 >>>

高校生が初めて大学生と接する場面でもあり、緊張気味の高校生を笑顔で迎えます。学生の対応が大学・短期大学部を印象付けるといっても過言ではありません。



開講式 >>>

開講式の司会進行も学生が担当。当日のスケジュールや注意事項などを限られた時間内で分かりやすく説明します。



写真撮影：堀合 遥希（地域経営学科4年）

大学 キャリアガイダンス講演会[9/25]～人生の選択と出会い～



「キャリアデザイン」の講義において、法官憲章氏、法官ジョディ氏を講師に迎えてキャリアガイダンス講演会を実施しました。「人生の選択と出会い」と題した講演では、自身のこれまでのキャリアや海外で生活することになった体験を基に、人生の選択についてお話しいただきました。講義を受講した学生は「今後、様々な選択があると思うが、より良い選択ができるよう失敗を恐れず様々なことに挑戦していきたい」と話していました。



野西高 八戸学院大学教員による特別授業を実施

新型コロナウイルス感染症の行動制限が緩和され、盛んに開催されているのが高大連携による特別授業です。この授業で系列の八戸学院大学の教員による幅広い専門分野に触れることで、高等教育機関への関心を高める機会となりました。

- 【主権者教育】(5/18)
地域経営学部地域経営学科 学科長 高須 則行 教授
- 【食えるということ～栄養素の身体の中での働きについて～】(8/25)
健康医療学部人間健康学科 井元 紀子 教授
- 【性教育講話 「生・性・SAY」】(8/31)
健康医療学部看護学科 学科長 高橋 雪子 教授
- 【誰でも簡単タグラグビー】(9/15)
健康医療学部人間健康学科 工藤 祐太郎 講師



井元教授による特別授業の様子

光星高 スポーツ大会 4年ぶり美保野キャンパスで開催[9/1]

美保野キャンパスを全面利用したスポーツ大会が、4年ぶりに行われました。6競技に学級単位（一部合同）で対戦、優勝チームには副賞も授与されました。また、恒例により各学級で生徒が考案したオリジナルTシャツを着用し、学級の団結力を高めていました。そして、「クラスTシャツグッドデザイン賞」も発表されました。

行動制限のないコロナ禍前の通常のエデュケーション活動をかみしめ、各学級の団結力と学級や各科の枠を越えた積極的な生徒同士の交流が図られ、充実した一日になりました。

11月17日（金）にはYSアリーナと市立体育館で2回目のスポーツ大会を実施する予定です。



クラスTシャツ紹介の様子



短大 砂浜彫刻[5/13]

八戸市鮫町にある白浜海岸で幼児保育学科恒例の行事である「砂浜彫刻」が行われました。八戸の素晴らしい自然を全身で体感するこの行事は今年で18年目。幼児保育学科の学生と光星高校保育福祉科の生徒が砂の彫刻を作成し、系列幼稚園3園の園児も遊びに訪れ、幼高大が一体となった行事となりました。



大学 北東北大学野球秋季1部リーグ優勝！

八戸学院大学硬式野球部は、北東北大学野球秋季1部リーグで富士大学との首位決定戦に8-5で勝利し、優勝（春秋通算9期ぶり16度目の優勝）を果たしました。同部は明治神宮大会出場をかけ、東北地区代表決定戦（10月21日・22日）に挑みます。



9期ぶりのリーグ優勝ということで、全員で勝つことが出来てとても嬉しく思っています。ですがその反面、この秋のリーグ戦はとても苦しい期間でもありました。開幕戦では延長の末負けてしまい幸先の悪いスタートになりました。2週目も1試合落としてしまい、3週目終了の時点で3位でした。チームの志気も下がりつつありましたが、ミーティングをしてチーム全体で高め合いながら4週目・5週目を戦おうと決めました。青森大学に2勝して最終週の天王山を迎えましたが、青森大学に勝った勢いそのままに全員野球で王座を奪還することが出来、チーム全員で掴んだ勝利だと思いました。

決定戦（10/21・22）では、目の前の1試合・1球・1プレーに集中して全員で戦い抜き2勝して神宮大会に出場できるように頑張りたいと思います。応援の程よろしくお願い致します。

主将 森本聖也

八戸学院第二しのめ幼稚園

バケツで稲作りに挑戦！

JA様のご指導のもと、稲作りに初挑戦！「稲ってなに？」の質問からスタートした子どもたち。「これがお米になるの？本当？」と不思議そうに見つめていました。

まずは、森林の黒土などを混ぜた土を使用し、泥土を作りました。木や葉っぱの混ざった土に触れることが初めての子が多く、「ザラザラ～。何か入ってるー！」と驚きながらも泥団子を作るように一生懸命混ぜる様子が見られました。「泥遊びしているみたい。何年ぶりだろう。」と子どもたちよりも目を輝かせ、取り組む保護者たち。親子で楽しむことができました。

泥土ができれば、各自の泥土に3ヶ所穴をあけて稲を植えました。

8月に入り、少しずつ穂がでてきました。収穫する日が楽しみです。



ステラ・フォーカス



八戸学院3幼稚園
マスコットキャラ
ステラが行く

vol.18

八戸学院聖アンナ幼稚園

「年長児・日帰りの旅」

「たくさんさんの初体験、子どもたち自身の思いを大切に」

子どもたちと幾度も話し合いながら、

日帰りの旅の準備を進めてきました。『せんべい汁が作りたい！』と、真つ先に夕食の献立が決定しました。『うちでは人参とゴボウが入ってる』『うちは大根』具材について、『忘れるといけないから』とお家の人と調べてメモしてきた子、『お家でお米研いでみた。ゴシゴシしないんだよ。』『せんべい汁作ってみたよ！皮をむく時、指の皮もむいちゃった！』など、お家の人と一緒に日帰りの旅を心待ちにする様子が伺えました。

職員員の心配をよそにグングン進んでいく子、ゆっくり自分のペースで懸命に登る子など様々で、『熊や蛇がいるかも!?』『また下り坂だ！今度は階段だ、滑るよ！』子ども同士声を掛け合い、時には気遣いながら歩く姿が見られました。普段は出せない、大きな声を思い切り出せるのも山ならではの、『ヤッホー!!』とこだまする声を味わいながら、清々しい表情で登り切りました。

昼食後、諏訪ノ平の無人駅からワンマン電車へ、ボタンを押してドアを開け、整理券を取り乗ったら、11個の踏切を通過して八戸駅へ到着です。幼稚園へ戻る途中、300円の入った自作のお財布を手に、お家の人のためにお花を購入しました。予想外にどの子も迷いなく即決しレジへ並んだので、お店の人は『他のも見なくていいの?』とたじたじでした。

幼稚園へ到着後、手作りの棒で思う存分お手製のビニータ（中にお菓子やおもちゃを詰めた紙製のくす玉人形）を叩き割り、おやつタイム。待ちに待った夕食作りやランタン作りに励む合間には、全員で1枚の大きな紙に『行ったところ

地図」を描きながら、まったりと1日の振り返りをしました。せんべい汁をお腹いっぱい食べた後は、まだまだ元気な様子の子どもたちと暗闇園庭探検です。子どもたち手作りのランタンが、まるで蛍

の光のように旅のラストを幻想的に彩ってくれました。全員が無事笑顔で旅を終えられたのは、保護者の皆様をはじめ、この旅に携わって下さった全ての皆様のお陰と感謝の気持ちでいっぱいです。



②



①



④



③



⑤

- ①名久井岳法光寺で座禅体験
- ②名久井岳登山
- ③ワンマン電車へ
- ④お家の人へお花を購入
- ⑤手作りのランタンを手

八戸学院幼稚園

「年長お楽しみ会 うちのパパって、すごいんだぞお！」

幼稚園では今年の4月、子どもたちの活動をサポートするお父さんの組織として「パパ親クラブ」を結成しました。最初の活動は6月の運動会で会場の設営と撤収を、そのあと7月に実施した年長クラスのお楽しみ会では、飯盒（はんごう）での炊飯とカレー作りをして頂きました。年長クラスのみならずは初めて見る飯盒に興味津々、お父さんの中にも初めての方もいてチームワークで作業をしていました。その様子を見た園児たち、お父さんたちの奮闘ぶりに「パパかっこいい～、すごお～い」と歓声をあげる子も…。子どもたちの応援もあって、とってもおいしいご飯が炊きあがりました。



ホールで食べたカレーライス、お父さんの頑張りでとてもおいしかったようで、またまた歓声が！「と～ってもおいしい、パパすごお～い」、思い出に残ったひと時でした。



八戸学院聖アンナ幼稚園

子の成長を“和やかに”

コロナ禍で中断されていた『お誕生会の懇談会』でしたが、今年度から再開することができました。お誕生月の園児の保護者と園長が給食を試食しながら、ゆったりと子どもたちの話に花を咲かせます。「普段元気すぎ・わがままばかりを言って困る…」などと思っていた我が子のことも、ほかの方の話を聞いてみたり、兄弟のいる子の保護者の話を参考にしたりすることで、肩の力が抜け、改めて愛しい存在として感じた方もいらっしゃいます。また、「そういえば、うちの子こないいいところもあるんですよ!」と良いところの発見も聞こえてくるようになります。目の前の子どもたちのこと、少し先の成長した姿

などに思いを馳せながら、懇談会での和やかな会話はお誕生会の開会直前まで続きます。





岩手県洋野町
町長
岡本 正善 氏

光星学院高等学校
(現八戸学院光星高等学校) 普通科
昭和 61 年 3 月卒

《高校時代について》

私は、1983年(昭和58年)4月、光星学院高等学校普通科に入学しました。光星学院は八戸市にありますが、十和田市や三沢市、上北郡や三戸郡、岩手県北からなど、近隣市町村をはじめ遠方からも入学しているスポーツの盛んな学校でした。私の出身中学校は、全校生徒でも200人程度でしたが、光星学院は、一学年が600人もある大きな高校で、学校へは30分位かけてスクールバスで通いました。

当時の部活動は、レスリング部や男女空手部、フィギュアスケート部やアイスホッケー部が強かった思い出があります。私自身は中学まで野球をしていま

したが、硬式野球部は丸坊主にしなければならぬと聞き、入部を断念しました。

《仕事について》

家業である林業のほか、地元の漁業協同組合の組合員となり、素潜りでのウニ漁、アワビ漁に従事しながら、消防団活動にも参加しました。

その中で、祖父や父も務めていた議会議員の仕事に興味を持ち、平成15年4月に種市町(現洋野町)議会議員選挙に36歳で立候補し初当選。以来、18年8ヶ月、町議会議員として活動しました。議員活動は、くらしや産業振興などについての町民の意見や要望を伺い、行政に届け、必要な施策を提案したり、役場機能

のチェックをする仕事です。

その後、令和4年1月の洋野町長選挙で当選、町長に就任させていただきました。コロナ禍でのスタートでしたが、町民の福祉向上と住み続けたいと思えるまちづくりのため、職員一丸となりアイデアを出し合い、諸施策に取り組んでいます。

そのような中、昨年11月、町の沿岸部約20kmに整備した本町特有のウニの増殖溝での「藻場の創出・保全活動」が、地球温暖化対策に貢献するとして、ブルーカーボンクレジットの認証を受けました。およそ半世紀前、漁業者たちの声を受け、町・県・国といった行政が整備し、長年にわたり地域の生業を支えてきた増

職員 ファイル



武田 裕大
教務学生課
八戸学院大学アイスホッケー部
監督

日本大学卒業
2022年4月に八戸学院大学
アイスホッケー部監督に就任



4歳で2人の兄の影響によりアイスホッケーをはじめました。アイスホッケー人生でのターニングポイントは中学3年生のU16日本代表に選出されたことだと思います。上手な仲間とやるアイスホッケーはこんなにも楽しいのかとすべてが初体験でした。それから毎年海外へ行き、アイスホッケーはもちろんのこと日本とは違う食文化、気温、価値観など様々な経験を積みました。

私が指導するうえで常日頃部員に言っていることがあります。「やらないとできないは違う」試合の場面場面で前のプレーでは「できていた」のに今のプレーでは「できていない」ということが多々あります。ただそれは「できていない」ではなく自分で限界を決めてしまう「やらない」になるのです。指導にあたっては、技術面のほかにメンタリティーの部分が重要です。これからも部員には自分で限界を決めないメンタリティーを作れるように指導していきます。

今後の目標は東北大会優勝、そして全国大会常勝のチームを作ること。「氷都八戸」にある本学からプロアイスホッケー選手を輩出し八戸を盛り上げられるように努力し続けます。



2013年

U16日本代表としてロシアに遠征。この経験がアイスホッケー人生におけるターニングポイントとなりました。

2023年

学生に指導する傍ら、自身もプレイヤーとして八戸の社会人リーグに出場しています。



殖溝が、現在、脱炭素社会の実現に向けて役立つと評価されたことで、過去から未来につながる行政の仕事の重さ、やりがいを感じています。

《後輩へのメッセージ》

高校で出会った友達や、勉強したことは一生の宝物だと思います。皆様の今後のご活躍を期待します。



理事長
散策

法 官 新 一
Shinichi Hogan

神に触れる機会を

子供のころは、日常生活の中で神仏に触れる機会が多かったように思う。お盆には仏壇に手を合わせ、お寺の本堂のお釈迦様に手を合わせ、お墓に手を合わせる。凍れる大晦日には父とお神酒を海に手向けて柏手を打ち、豊漁と安全祈願をした記憶がある。結婚式、葬式の冠婚葬祭や土地の催事を通して、神仏を身近に感じる事が多くあった。少し成長して気になったのは、祝いの結婚式は神社で、弔いの葬式はお寺さんということ。そんなイメージが定着したことである。しかし、年の初めには新年を迎え、無病息災、希望に満ちた日々を願い、元日の朝早くからお寺へ神社へと願掛けに行く。誰でも経験してきた日本の風習でしょう。

こんな日常の環境で育ちながら、お寺さんと神社の違いに違和感を持ちながら受け入れてきた。宮司さんの祝詞も、お坊さんの読経も、それなりに受け入れるようになり、年齢も重ねると口ずさむようになった。子供のころからだと思うが、悩みや苦境に遭遇すると、つい神様・仏様と口ずさみ禍から逃れようとした。知らないうちに身についた厄除けで、なぜか神仏のご利益を信じよく心の中で唱えた。それが大人になってからでも、気持ちのどこか

にあつて口に出さずとも、神仏に頼る時がある。大方人知を超えた偉大な神様の存在を認めていることなのかもしれない。いつからかは定かでないが、困ったときには「神様・仏様・イエスキリスト様」となっていることに気づいた。私たちはこの世の中で、苦境からの救いや、希望を求めた願いや、喜びや感謝を表す時、神仏と対面したくなることが多い。そんなとき、一種独特な威厳や荘厳で神秘的な空間を持っている、社殿や本堂や教会に身を置く。と誰しも心静かな自分を感じるだろう。雑念の中で整然とした自分の心うちを見だし、落ち着きをとれどず時間を経験したことがあると思う。この瞬間が神に触れることだと思うし、神の庇護のもとにある実感なのかもしれない。時に、静かな時間を過ごすことは、自分の心を覗く時間になる。特に、神社仏閣が持つ神聖な空間の中で、自分の内面と向き合ってみることが大切な時代だと思っている。

本学のキャンパスには、瀟洒なチャペルがあります。ぜひ訪ねて下さい。キリスト教に触れる機会はほとんどありませんでしたが、八戸の聖ウルスラ修道会の教会には何度か入ったことが



学生時代から愛用している讃美歌

あります。クリスマス礼拝で参加したことは、今でもはっきりと記憶にあります。大学時代はキャンパスにチャペルがあって、毎週必ず礼拝の時間と講義がありました。その中で必ず讃美歌を歌います。初めての経験でしたが、3年間サボらずに出席し、讃美歌がだんだん好きになりました。礼拝の時間は、頌栄の短い賛美歌9番で始まり、お祈りの前後に歌う賛美歌は、その都度選曲されていました。記憶に残る旋律が多く、30番の礼拝朝、85番の父なる神慈愛、94番のキリスト待降、103番・106番・109・112番キリスト降誕、122番・130番キリスト生涯、168番統御、267番・273番・276番信仰、285番・298番信頼、310番・312番祈

祷、320番向上・352番・354番霊の交わりの讃美歌は今でも時々口ずさみます。そして、礼拝の終わりに、また頌栄の讃美歌を一同で合唱するのです。お陰で讃美歌も随分身近なものになりましたが、特に276番は私

に響く大切な音律を持っていて、元氣や勇気や希望を感じさせてくれます。神父さんのお話しにも、神主さんの祝詞にも、お坊さんの読経にも人の心の奥底まで届く響きを感じます。同にチャペルで歌われる讃美歌も、心に届



美保野キャンパス図書館内にあるチャペル

の活力の源です。私たちの学院は、キリスト教を根幹において教育していますので、短期大学部では讃美歌を大事にしてくれていますし、高校でも折に触れ讃美歌を歌ってくれています。何百年も歌い継がれている讃美歌は、心

く魂の音だと思っています。時に、こうした環境の中で時間を持てたら、こころ豊かなひと時を感じることが出来ると思っています。神に触れる機会を持つことは、私たちの人生をきつと豊かにしてくれると思っています。

欠畑みな子先生を偲んで

八戸短期大学（現八戸学院大学短期大学部）学科長・教授として幼児保育学科で美術を担当していた欠畑先生は彫刻家としての一面もあり、大学会館にある「IXΘΥΣ」（イクトウス）をはじめ、法人施設には光星学院の教育の根底にあるカトリシズムを具現化した作品が多数飾られています。



大学会館にある「IXΘΥΣ」(イクトウス)

8月6日 逝去 88歳

欠畑先生は、ご自身もカトリック信者として、教会にまつわる彫刻を多数制作されてこられました。常に謙虚で温厚な先生で、相手のことを考え、光を当て導いてくださいました。

萬鉄五郎記念美術館（岩手県東和町）で開かれた欠畑先生の展覧会の開幕で「アヴェマリア」を独唱させていただいたことは良い思い出です。

附田勢津子氏（元八戸学院大学短期大学部学科長・教授）

ご冥福をお祈りいたします。





八戸学院グッズのご紹介

八戸学院グッズに新たな商品が仲間入りしました。

プライベートはもちろん、仕事にも使えるトートバッグや、スポーツ観戦時に応援グッズとしても使用できるマフラータオルです。



キャンバスホリデートート(L)

厚手の丈夫なコットン生地で、幅広のマチ・丸みのあるスクエア底の大きめのバッグです。

※本体 約 410×390×140(mm)・刺繍



バイカールートートバッグ(M)

生地が厚手で、広めの底マチが使いやすく、A4 サイズが余裕で収容可能な、普段使いに適したバッグです。

※本体 約 430×380×160(mm)・刺繍



マフラータオル

シンボルカラーのエンジを基調とした、オリジナルデザインのマフラータオルです。スポーツ観戦だけではなく、日常生活でもさまざまな場面に活用できます。

※サイズ W1,100×H200(mm)



バイカールートートバッグ(S)

ちょっとした外出に便利なバッグです。ランチバッグとしてもおすすめです。

※本体 約 230×320×130(mm)・刺繍